

①交通事故の現状

1. これまでの交通事故発生状況

我が国における交通事故死者数、死傷者数、死傷事故件数は、交通量の急激な増大に伴い大幅に増加しており、昭和45年にはピークに達し、「交通戦争」と呼ばれました。

これに対処するため、様々な対策を講じたことにより、急激に減少しましたが、昭和50年の前半から再び増加傾向となりました。その後、重点的な事故対策、通学路における歩行空間の整備など様々な交通事故対策を実施したことにより、死者数は平成5年以降、死傷者数及び死傷事故件数は平成17年以降、減少傾向に転じています。

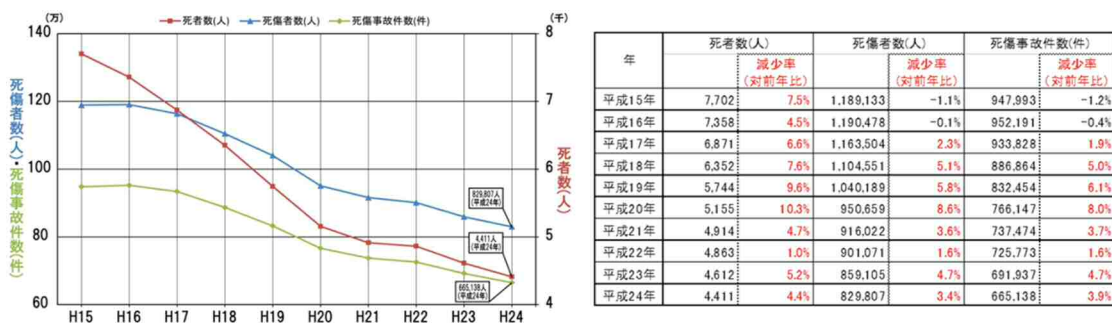
交通事故死者数、死傷者数等の推移



2. 近年(過去10年)の交通事故発生状況

近年における交通事故の発生状況を見ると、平成24年中の交通事故死者数は 4,411 人(前年比-201人、-4.4%)、死傷者数は 829,807 人(前年比-29,298 人、-3.4%)、死傷事故件数は 665,138 件(前年比-26,799 件、-3.9%)となり、連続して減少していますが、近年下げ止まりの傾向となっています。

平成15年以降の死者数・死傷者数・死傷事故件数の推移



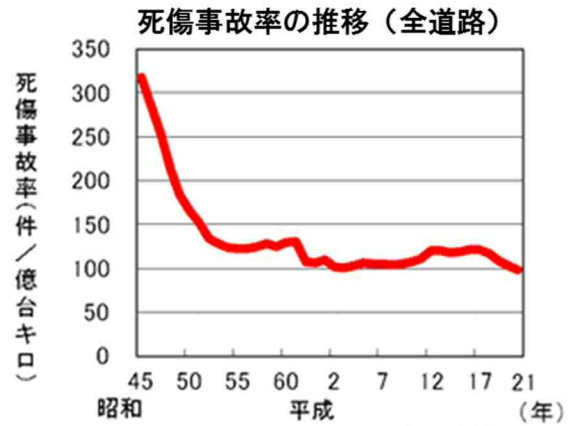
(引用・参考)
 ※国土交通省ホームページより
 ※警察庁ホームページ「平成24年度警察白書」を基に作成
 ※統計局ホームページ「平成24年中の交通事故の発生状況」を基に作成

3. 交通量の観点からの交通事故発生状況

【死傷事故率の推移】

走行台キロ(自動車の走行距離の総和)あたりの死傷事故発生件数を算出(死傷事故率)し、全道路の推移を見ると、昭和55年頃までに大きく改善していますが、その後は横ばい傾向にあります。

$$\text{死傷事故率 (件/億台キロ)} = \frac{\text{死傷者事故件数(件)}}{\text{自動車走行台キロ(億台キロ)}}$$



(引用・参考)
※国土交通省ホームページより

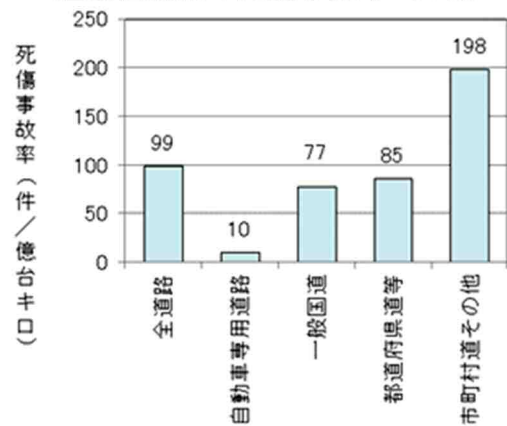
◆「死傷事故率」

○自動車走行台キロ当たり(区間毎の交通量と道路延長を掛け合わせた値であり、道路交通の量を表す。)の死傷事故件数を表す指標で、1万台の車が1万km走行した場合に起こる死傷事故件数を表します。死傷事故率の減少は、道路を走行する際に事故に遭う確立が減少し、安全性が向上することを意味します。

【道路種類別の死傷事故率の比較】

道路種類別に平成21年の死傷事故率を見ると、生活道路(市町村道その他)は幹線道路(一般国道及び都道府県道等)の約2倍、幹線道路は自動車専用道路の約8倍となっており、道路の規格が高くなるにつれて死傷事故率が低くなっています。

道路種類別の死傷事故率 (平成21年)



(引用・参考)
※国土交通省ホームページより

◆「自動車専用道路」の死傷事故率は低い？

○高速自動車国道等の自動車専用の道路は、原則として上下線が分離され、また、長距離を連続的に高速で走行することから事故に遭遇する確率は低くなり事故率も低くなります。

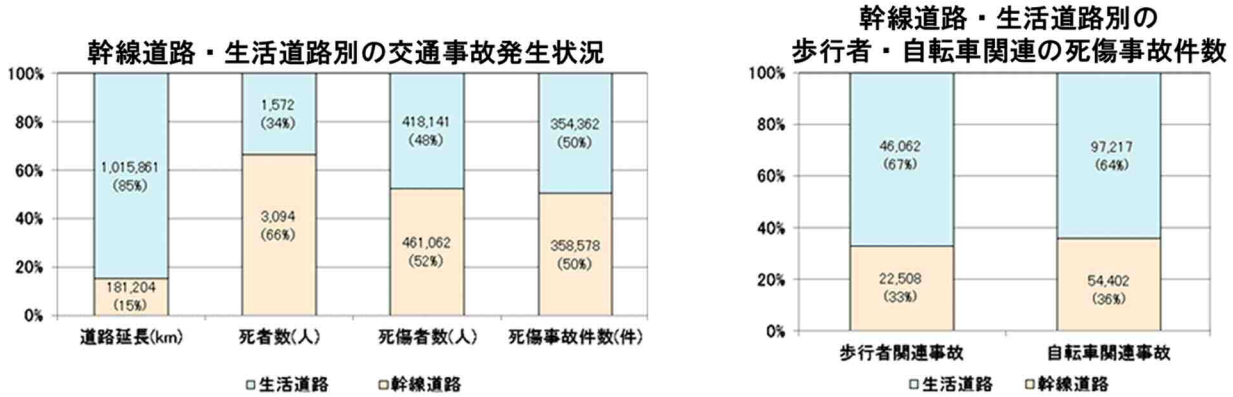
しかし、高速自動車国道等は高速走行となるため、わずかな運転ミスが交通事故に結びつきやすく、事故が発生した場合の被害も大きく、関係車両や死者も多数に及ぶ重大事故に発展することが多くなります。このため、死亡事故率は、その他の道路の約2倍となります。

これは、高速で走行する高速自動車国道等の自動車専用道路では、事故に遭遇する確率は低いものの、一旦、交通事故が発生すると、重大事故に至る可能性が高いことを示しています。

4. 幹線道路と生活道路における交通事故の発生状況

幹線道路と生活道路における交通事故発生状況を見ると、幹線道路においては、道路延長で15%しか占めていないにもかかわらず、死者数は生活道路の約2倍となっています。死傷者及び死傷事故件数は幹線道路・生活道路で約半々となっています。

また、歩行者関連事故・自転車関連事故を見ると、生活道路における死傷事故件数は幹線道路の2倍となっています。



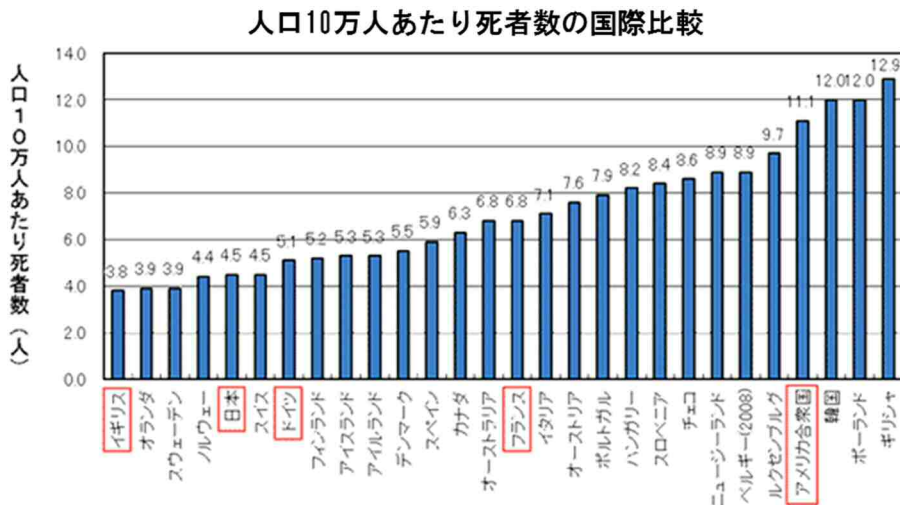
道路延長:平成21年4月1日現在
 交通事故死者数(人):平成22年
 交通事故死傷者数(人):平成22年
 交通事故死傷事故件数(件):平成22年
 幹線道路:一般国道、主要地方道、一般都道府県道
 生活道路:市町村道、その他(農道、私道など道路法上の道路以外の道路など)

(引用・参考)
 ※国土交通省ホームページより

5. 交通事故の国際比較

【人口10万人あたり交通事故死者数の国際比較】

国際道路交通事故データベース(IRTAD)がデータを公表している28カ国中の人口10万人あたり死者数を見ると、日本は4.5人と少ない方から5番目に位置しています。

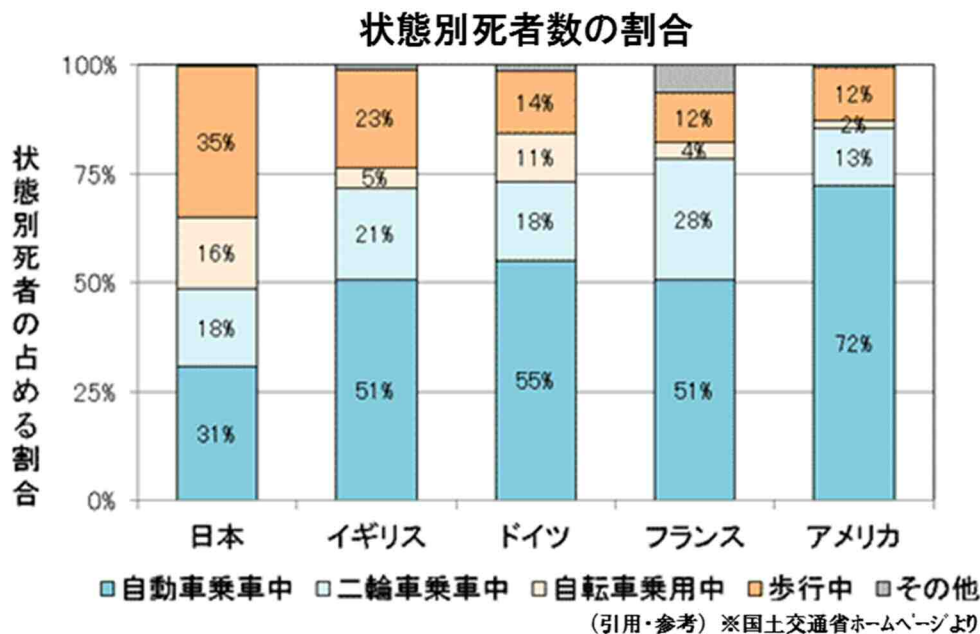


(引用・参考)
 ※国土交通省ホームページより

【欧米との国際比較】

日本・イギリス・ドイツ・フランス・アメリカについて更に詳細な事故の状況を比較する。

死者数を状態別(自動車乗車中・二輪車乗車中・自転車乗用中・歩行中・その他)に分類すると、日本は歩行中と自転車乗用中の死者の合計が全体の51%を占めており、欧米の約14%~28%と比較して非常に大きくなっています。一方、自動車乗車中の死者は31%で、他国が51%~72%であるのに比べて低くなっています。



年齢別の死者数では、日本は65歳以上の高齢者の死者数は51%を占めており、欧米の約16%~27%と比較して非常に大きくなっています。また、人口の中で、高齢者の占める割合と死者数の中で、高齢者の占める割合を比較しても、欧米はほぼ同じ比率であるのに対し、日本は死者数の中で、高齢者の占める割合が非常に大きくなっています。

